キャベツの高度クリーン栽培技術

概　要 Abstract

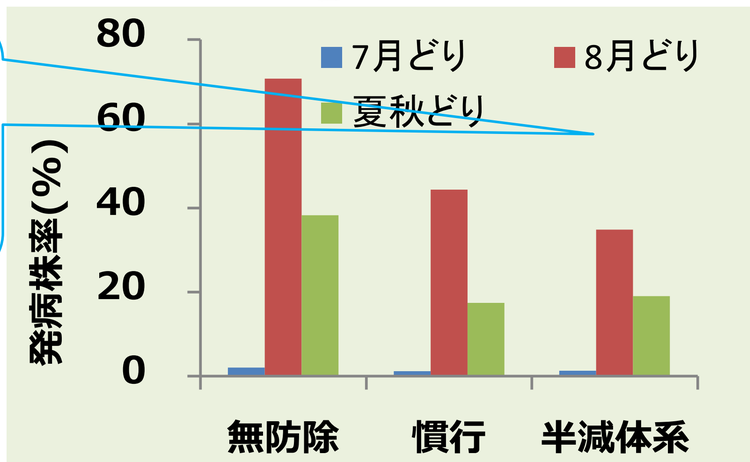
化学肥料、化学農薬の使用を慣行栽培の半分以上に減らして栽培する特別栽培が注目されています。そこで、野菜類の中でも化学農薬の使用回数が多いキャベツについて、その使用を半分に減らす高度にクリーンな栽培技術に取り組み、防除体系のモデルを示しました。この体系で防除を実施したところ、主要病害虫に対して慣行と同等からやや優る防除効果、同等の商品化率が得られました。

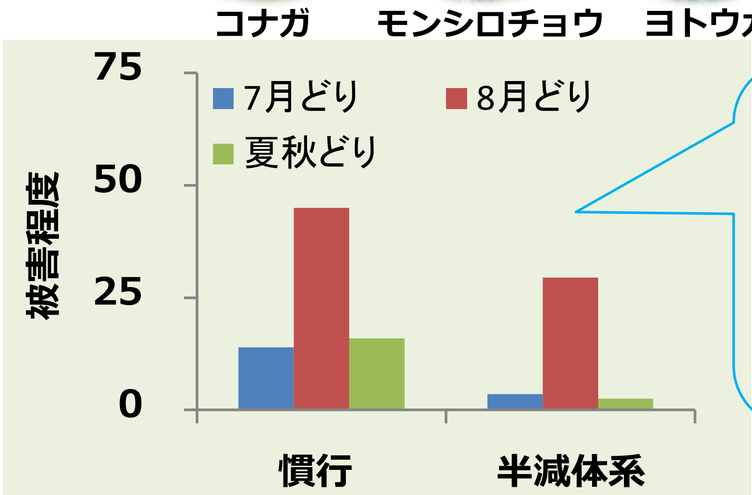
成　果 Results

軟腐病

コナガ　モンシロチョウ　ヨトウガ

カウントされない薬剤に替えても慣行と同等の効果！





効き目の長い薬剤やカウントされない薬剤の利用で慣行よりやや優る効果！

図．化学農薬半減体系による病害虫の防除効果

ここがポイント！

① 定植時に効き目の長い殺虫剤を使って翌週の防除を省略！

② カウントされない薬剤の利用で畑での化学合成殺菌剤の使用を0～1回に！

③ 8月どり以外は結球期に効き目の長い殺虫剤を散布すれば翌週は省略！

表．化学農薬を50%削減した病害虫防除体系モデル

作型	対象病害虫	定植後週数 0	1	2	3	4	5	6	7
7月どり	軟腐病	<定植時>			② A	<結球始～結球期> B	A	B	
	(株腐病)*					(△)			
	鱗翅目幼虫	◎ ①		●	(●)**	◎または● ③	●	●	●
8月どり 夏秋どり	軟腐病	<定植時>		<結球始～結球期> A	B ②	A	B	A	
	(株腐病)				(△)				
	鱗翅目幼虫	◎ ①		●	③ ◎または●	●	●	●	●

＊;常発圃場など必要に応じて防除対象とし、その場合は種子消毒に使用できる化学農薬を2剤までとする。
＊＊;発生状況によって散布を実施する。
○;カウントされない殺菌剤(A:バリダマイシン液剤、B:非病原性エルビニア　カロトボーラ水和剤)
△;化学合成殺菌剤(ペンチオピラド水和剤Fまたはフルジオキソニル水和剤F)
◎;効き目の長い殺虫剤(ジアミド系)、○;化学合成殺虫剤、●;カウントされない殺虫剤(BT剤、スピノサド)

軟腐病

鱗翅目幼虫による食害

株腐病

慣行 16～19 → 化学農薬使用回数が半分以下に！ → 体系モデル 7～8 (+カウント外農薬 5～8)

普及 Dissemination

1）本モデルは特別栽培を実施する場合の参考に活用できます。

2）本試験は長沼町にある中央農試で実施しました。

3）飛来するコナガ個体群の薬剤抵抗性の予測は困難なため、殺虫剤散布後も圃場を観察し、その効果を確認して下さい。

連絡先 Contact

中央農業試験場
病虫部 クリーン病害虫グループ
０１２３－８９－２２９１
central-agri@hro.or.jp